

住教育におけるシティズンシップ力を育む設問の研究

—高等学校地理を対象として—

RESEARCH ON QUESTIONS TO DEVELOP CITIZENSHIP SKILLS IN HOUSING EDUCATION Targeting Geography Education in High Schools

12123010

中山由梨亜

主査 葉袋 奈美子 教授

副査 平田 京子 教授

細井 昭憲 教授

2022 年度から高等学校では新たな科目として地理総合が必修科目となり、改訂された学習指導要領では科目目標の一つを「世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する」と定めている。本研究では、単に知識を持つだけでなく多角的な考え方を身につけ、市民の一員として社会課題に取り組む力をシティズンシップ力と位置付け、地理教育を主体的なまちづくりや防災教育に密接に関わる住教育の一つとして注目し、地理教育におけるシティズンシップ教育の可能性を検討する。スウェーデンをはじめとする北欧諸国の地理教科書では、知識を応用して社会課題を多角的に考察する設問が多い。一方で、日本の地理教科書では本文に書かれている内容で完結する設問が多く、多角的な視点から社会の現状を考える力が身につくとはいえない為、教科書の内容に沿ったシティズンシップ力を培う設問を設定した。結果に差は生じたが社会の現状に対して自ら課題を見出し、積極的に課題解決に取り組む効果が得られ、設問設定を工夫することでシティズンシップ力が育まれ、主体的な意識形成につながる可能性を明らかになった。

Keywords: *Citizenship, Geography education, Citizenship education, Sweden, Question, Courses of Study*

シティズンシップ, 地理教育, 主権者教育, スウェーデン, 設問, 学習指導要領

1. 研究の背景と目的

住民が主体となって住環境を豊かにしていくためには、住民が意見を出し合って土地に対する理解を深め、積極的に課題を解決していこうとする一人一人の意識が大切である。地理の学習では都市計画や防災教育などの暮らしにつながるあらゆる事柄を学ぶことができ、市民の意識形成にも密接に関わっている。学習指導要領の改訂により 2022 年度から高等学校教育で「地理総合」が新たな科目として設定され、約 50 年ぶりに地理が必修科目となった。とくに近年では持続可能な社会づくりのための主体的な学びが重要視されており、地理教育においても環境問題や社会問題を自分ごととして捉えて自ら判断し行動する学びが注目されている。本研究では、単に知識を持つだけでなく幅広い知識を応用して多角的な考え方を身につけ、市民の一員として社会課題に取り組む力をシティズンシップ教育と位置付け¹、日本の地理教育におけるシティズンシップ教育の可能性を検討する。

世界においてもスウェーデンやフィンランドをはじめとする北欧諸国では先進的にシティズンシップ教育を行っており、フィンランドの中学校公民の教科書²では社会の現状に対して生徒自身に提案を求める設問が多く記載されているなど、能動的な社会参画を働き

かける内容であった。

本研究では、住教育の一つとしての地理教育に注目し、先進的に主権者教育を行っているスウェーデンの教科書と設問設定から知見を得て、日本の住教育におけるシティズンシップ教育の可能性を明らかにすることを目的とする。

2. 日本の地理の教科書

2-1 高校地理 A (帝国書院)

(1) 教科書の構成

本研究で用いた高校地理 A の教科書は、2020 度に使用されたもののうち最も設問数が多いもの³を選定している。教科書の構成は 2 部 7 章で構成されており、本研究では地形や気候に関連する第 2 章と、都市計画に関連する第 4 章の内容と設問について分析を行った。各章では教科書の設問が含まれる本文と、地図やグラフの読み取りの練習等の実践的な地理的技能について学ぶコーナー「技能をみがく」が適宜配置されている。本文では図や写真等の資料が半分の面積を占めており、設問は見開き 1 ページに 1~3 問設けられている。災害や防災に紙幅が多く割かれ、身近な地域の調査を促す設問も複数見られた。

(2) 都市計画に関連する章の構成と設問

都市計画に関する記載は、世界の諸地域の生活文化を説明する章に各地域の都市の様子や問題について少しずつ触れている。「4章 地球の課題と私たち」では22頁にわたって世界の諸課題について触れている。

4章に付随する設問は14問で、その例を表1に示す。他の章の設問と比べ、世界における都市の諸課題について触れている内容が多い。このうち、「世界の人口問題とその対策について、先進国と発展途上国に分けて、それぞれの特徴を表に整理してみよう。」というような、本文記載事項を整理させることで、本文の内容を確認する設問が7問であった。また、内容の確認だけでなく、「先進国の都市のなかで大規模な再開発を行なっている都市を調べ、どのような再開発か、短いレポートにまとめてみよう。」といったような、生徒自身に世界の事例を調べるよう直接促す設問は2問みられた。「穀物を飼料として与えられ、生産された肉類を消費することの影響について考えてみよう。」というような、生徒自身の意見を求めたり生徒自身に課題について考察させたりする設問は4問であった。こういった生徒自身の意見を求める設問は、批判的思考力や能動的な課題解決への参画を促すと言えるが、教科書全体と比較すると同様の設問は少ないと言える。

表1 地理A 4章 本文に付随する設問

1	図①を見て、おもに先進国で発生する問題と、発展途上国で発生する問題とに分けて整理してみよう。
2	地球規模の環境課題を解決するために、私たちができることは何か考えてみよう。
3	アマゾン川流域とスマトラ島の熱帯雨林破壊地域は、どのような土地に開発するために伐採が行われているのだろうか。地域ごとの特徴をまとめてみよう。
4	図3から、どのような地域で二酸化炭素の排出量が多いのか、また図5から、どのような地域でその伸びが著しいのかを読み取ろう。さらに、その背景には何があるのかを考えてみよう。
5	身のまわりにある省エネルギーやリサイクル、再生可能エネルギーの例をあげてみよう。
6	世界のなかで、再生可能エネルギーの導入に力を入れている国を調べ、背景となる自然環境の特徴と推進されている再生可能エネルギーの種類を表にまとめてみよう。
7	世界の人口問題とその対策について、先進国と発展途上国に分けて、それぞれの特徴を表に整理してみよう。
8	インドの人口政策が成功した場合、図2の人口ピラミッドの形がどのようなになるか予測してみよう。
9	高い社会福祉の水準を維持するために、高額な税金を負担することについて、あなたの考えをまとめてみよう。
10	発展途上国で食糧不足や飢餓が起こる原因をあげてみよう。
11	穀物を飼料として与えられ、生産された肉類を消費することの影響について考えてみよう。
12	都市問題にはどのようなものがあるのか、発展途上国と先進国に分けて、具体例をあげてみよう。
13	メキシコシティの都市問題の原因を、地形などの自然的要因と人為的要因に分けてまとめてみよう。
14	先進国の都市のなかで大規模な再開発を行なっている都市を調べ、どのような再開発か、短いレポートにまとめてみよう。

2-2 地理総合の教科書

(1) 教科書の構成

2022年度から新設された地理総合の教科書は、本研究で扱った地理Aと同じ出版社の教科書⁴を用いた。教科書は3部6章で構成されており、設問やコラムが適宜配置されている本文と、地図や写真の読み取りなどを実践的に学ぶ「SKILL」と題したページが各節の

末尾等に全26ページ配置されている。本文の内容は主に、地図で現代社会を読み解く章、世界の地形や気候と生活文化のかかわりを説明している章、世界の諸地域や宗教における生活文化の歴史や産業の発展を説明している章、現代の地球課題を国際的な視点から考察する章、日本の自然環境で起こり得る災害について学ぶ章で構成されている。地理Aの教科書と内容はほとんど変わっていないが、WebGISやe-Statなどのウェブサイトを使った地理的学習に関する内容や、SDGsなどの地球規模の課題、防災や生活圏の調査分析に関する内容が増えており、現代の社会課題に対して取り組むことが重視されているのではないかと考えられる。本章では前章と同様に、地形や気候に関連する項目と都市計画に関連する項目について分析を行う。

設問は見開き1ページに設問が2問ずつ設けられており、本文の量に対する設問数の割合に関しては地理Aの教科書と大きく変更されていないが、【確認】の問いと【深い学び】の問いの計2問がセットになっている。地理Aの教科書では設問に明確な種類分けがされていなかったが、地理総合の教科書では明確に2種類に分けて設問を載せており、設問の作用をより意識して構成されている。

(2) 都市計画に関連する章の構成と設問

都市計画に関連する項目は「2部2章 地球の課題と国際協力」に記載され、表2に示す6節42頁の本文と、それに付随する30個の設問が設けられ、ページ数と設問数どちらも地理Aの教科書の倍近い量となっている。2部2章では、世界の都市や諸地域における課題の現状と、課題を解決に向けた世界的な取り組みについて説明している。

表3に示した設問例のうち、奇数番号が【確認】の設問、偶数番号が【深い学び】の設問である。本文の内容を確認する【確認】の設問では、主に本文で紹介している世界の課題や取り組みについて説明させる内容になっている。【深い学び】の設問では、「地球環境問題の例の一つ挙げ、その原因や背景を調べたうえで解決策について考えよう。」といった課題解決に向けた解決策を考えさせる内容や、「持続可能なエネルギーシステムを導入している国の事例を調べ、日本への導入の可能性を考えよう。」「日本で取り組まれている都市・居住問題への対策を調べよう。」といった、日本における課題や取り組みを考えさせる内容である。【深い学び】の設問は事例を調べ、課題解決を考える設問があり、世界で起きている現状課題や取り組みについての理解を深め、思考力を培う。しかし、教科書本文の内容から回答する設問や、事例について調べるように促すだけの設問もあり、社会の課題解決に向けた積極的な自身の考えを養うような思考力を培う設問は、多くはみられなかった。

表2 地理総合教科書第2部第2章の節別設問数

地球の課題と国際協力		頁数	設問数
1節	複雑に絡み合う地球の課題	146~149頁	4 2
2節	地球環境問題	150~157頁	8 6
3節	資源・エネルギー問題	158~165頁	8 6
4節	人口問題	166~173頁	8 6
5節	食料問題	174~179頁	6 4
6節	都市・居住問題	180~187頁	8 6
合計			42 30

表3 地理総合教科書内4章の設問例

1	持続可能な社会とはどのような社会か説明しよう。
2	さまざまな地球的課題の解決が容易ではない理由を説明しよう。
3	産業革命が地球環境に与えた影響を説明しよう。
4	地球環境問題の例を一つ挙げ、その原因や背景を調べたうえで解決策について考えよう。
5	熱帯林の破壊が深刻になっている背景を説明しよう。
6	熱帯林の減少の問題を解決するためには、どのような取り組みが大切か、グローバルな視点から考えよう。
7	京都議定書とパリ協定の違いについて説明しよう。
8	二酸化炭素の削減に向けて、どのような取り組みが大切だろうか。
9	エネルギーの利用は、どのように変化してきたのか説明しよう。
10	写真③～⑤の発電方法には、どのような利点と課題があるのだろうか。
11	エネルギー資源をめぐる世界の動きと、それにより生じた課題を説明しよう。
12	持続可能なエネルギーシステムを目指して、どのような取り組みがなされているのだろうか。
13	ブラジルでバイオエタノールの利用が、デンマークで海洋風力発電の利用が多いのは、なぜだろうか。
14	持続可能なエネルギーシステムを導入している国の事例を調べ、日本への導入の可能性を考えよう。
15	20世紀後半に急激な人口増加が起こった地域を挙げよう。
16	発展途上国と先進国では、典型的な人口ピラミッドの型にどのような違いがみられるのか説明しよう。
17	先進国の人口問題の特徴を、「少子化」「高齢化」の語句を用いて説明しよう。
18	発展途上国の人口問題の解決には何が必要なのだろうか。また、先進国の高齢化にはどのような対策が必要なのだろうか。
19	発展途上国のインドと先進国のフランスが抱える人口問題には、どのような違いがあるのだろうか。
20	インドとフランスでは、人口問題を解決するために、どのような取り組みが行われているのか説明しよう。
21	アフリカで栄養不足の人々が多い理由を説明しよう。
22	先進国と発展途上国の食料問題は、どのように関係し合っているのだろうか。
23	フードバンクが行われるようになった背景を説明しよう。
24	発展途上国への農業支援には、どのような考え方に基づく取り組みが必要なのだろうか。
25	世界の大都市は、主にどのような地域に分布しているのか、「中緯度」「沿岸部」という語句を用いて説明しよう。
26	世界の大都市は、どのような背景の下で人口が増加していったのか説明しよう。
27	発展途上国と先進国の都市・居住問題の特徴を、「スラム」「インナーシティ問題」の語句を用いて説明しよう。
28	都市・居住問題の解決に向けて、ロンドンではどのような開発が進められたのか説明しよう。
29	メキシコシティとポートランドが抱える都市・居住問題には、どのような違いがあるのだろうか。
30	日本で取り組まれている都市・居住問題への対策を調べよう。

4. スウェーデンの教科書

4-1 教科書の構成

本研究では、スウェーデンの高校課程の地理教科書「GEO - geografi för gymnasiet (Gleerups Utbildning AB, 2012年)」を分析に用いた。分析対象の教科書は全13章で構成され、その例を表4に示す。自然環境、地図、地形、人口、食糧、生産、観光、都市、地域計画などの地理に関連するテーマが説明されている。各章は、本文としての用語の説明や社会課題等の説明に加え、コラム的に様々な国での関連した事柄について、具体事例を挙げて説明をしている。各章末にはその章で扱うキーワードの一覧と設問が1頁にまとめて記載されている。設問は2つのタイプに分かれて置かれ、教科書本文の内容を確認する設問と、本文の内容に触れてさらに調査

や話し合いを促す設問となっている。

そして教科書の末尾には地理的研究と題した章が置かれ、13個の研究課題として世界の事例を題材にそれぞれ概要説明と設問が掲載されている。本研究では、都市計画に関連する章と末尾の章の地理的研究に着目して構成と設問について分析を行う。

表4 スウェーデン地理教科書の章題と語句

章題	章のキーワード
C 地球,地形,風景 P.52-104	地球の構造 [リソスウェア・水圏・大気・生物圏・アセノスフィア・対流・海底地殻・大陸地殻・沈下・収束・プレートテクトニクス] 地球の内力 [内因性プロセス・断層・地塁・地溝・地震・リヒタースケール(マグニチュード)・ホットスポット・火山・溶岩] 地球の外力 [外因性プロセス・風化・ペネプラン(岩石の水平な侵食面)・摩耗・侵食] 岩盤 [マグマ・火成岩・堆積岩・変成岩・鉱物・地質時代・地質期間(単位)・原始岩・カンプロシルル期の岩石] 土壌 [鉱物性土壌・有機土壌・土] 氷が風景を形作った [氷河・間氷期・ラウンドホブ(氷床で削られた石や岩)・U字谷・モレーン・小石の尾根・Högsta kustlinjen(過去最高の平均海面水位)]
D 人口 P.106-138	出生率・死亡率・自然増加・総人口増加・純移動数・出生率と再生産数・累進人口ピラミッド・定常人口ピラミッド・怪奇時効ピラミッド・人口転換・移住のプッシュプルモデル・転勤・ゲストワーカー・人身売買・頭脳流出・頭脳獲得・難民条約・事実上の難民・マルサスの人口論・ボセルプの人口論・性と生殖に関する健康
E 天気,気候,植生 P.140-172	対流圏・成層圏・電離圏・天頂・コリオリの力・熱帯収束帯・貿易風・極前線・モンスーン・対流・露点・断熱温度変化・積雲・巻雲・山岳降水量・ジェット気流・竜巻・サイクロン・エルニーニョ・気候帯・ツンドラ・マッキ・サバンナ・マングローブ
I 輸送と貿易 P.248-264	交通手段・コミュニケーション・リンクとノード・インフラストラクチャー・コンテナ・持続可能な開発・石油ピーク・IT・イノベーションの普及・断層的拡散・貿易・関税同盟・貿易圏
K 都市 P.284-314	都市化・都市のエコロジカル・フットプリント・持続可能な都市・ロケーションメリット・提供する能力・都市化の程度・Zwischenstadt(間の都市)・メガシティ・メガロポリス(都市景観)・スラムとスラム街・公益事業・ポイントハウス・モダニズムと機能主義・ABC郊外・ミリオンプログラム・分離とゲッター・ゲートコミュニティ・ゾーンモデル/セクターモデル/マルチコアモデル・CBD(中央ビジネス地区)・昼夜人口・有機的パターン・グリッドパターン・放射状および斜めのパターン・都市のシルエット(スカイライン)・ランクサイズルール・中心地理論
L 地域とコミュニティの計画 P.316-334	均質領域・機能領域・北部針葉樹林地帯・オレサンド地方・ストックホルムとメーラー地方・ゾーン・風景・国と州・コンパクト、細長い断片化された状態・自然限界・争われた国境・文明・地方主義・地域主義・ナショナリズム・ガイア・独占を計画する・空間計画・セクター計画・概要計画・詳細計画・建築許可
M 地理的研究 P.336-357	地理学における自身の仕事・ヨーロッパの農業地域-地図の練習・キルナ街を動かせますか?・バナマとスエズ運河-2つの重要な近道・アラブ首長国連邦-石油がどのように社会を根本的に変えたのか・バレンツ地域-地域を作成する試み・テーマ別マップの操作・ムンバイ「デンバーエクササイズ」・薬の生産、流通、消費・スウェーデンのビジネスはどのくらいスウェーデンか?・気候変動とインフラ・あなたの故郷はいつ「生まれた」のですか?・空の旅と持続可能な開発

4-2 都市計画に関連する章と設問

都市計画に関わる内容は「K 章 都市」に記載され、5 節 30 ページで構成されている。都市の成り立ちから世界における都市計画の歴史を細かく掲載しており、スラムや環境汚染などの都市における半永続的な都市課題にも触れ、問題が生じた原因と過去の対策を踏まえて説明している。

本章に設けられている設問は、本文の内容を確認する設問が 16 個と、【話し合いや調査を促す設問】の 14 個である。それぞれの設問例を表 5、表 6 に示す。これは本文の内容を現代や身近な住環境における課題として捉え、その原因を考察したり解決策を生徒自身に考えさせたりする設問である。【話し合いや調査を促す設問】を回答するためには、例えば次のような手順が必要になる。A の設問では、本文に記載されている事例を踏まえつつ、本章全体を参考にして住環境に与える影響を自ら考える必要がある。B の設問では、自分が暮らす街でスペースを有効活用するためにしていることもしくは有効活用されている場所を探し出し、それが街に与える影響や、街の特徴を捉えることが必要とされる。G の設問では、本文で 2 つのパターンが登場した経緯の説明はされているが、長所と短所は明記されていない。それぞれの特徴を詳しく調べて、現代に生きる自分の生活に合う家を考える機会となる。I の設問では、本文でゲットーなどの都市で発生した民族分離地区の説明があり、都市における民族の分離において自ら深く考え、意見を示す必要がある。批判的思考力を促す設問になっている。K の設問では、3 つのモデルについて本文で説明されており、本文で得た知識を身近な街で活かす方法と、なぜそれらがかつて活かされていたのか、歴史を理解して将来の住環境を深く考える機会を与えている。M の設問では、本文にグリッドパターンの説明やランドマークを用いた中世の代表的な都市の事例を挙げている。自分が普段から街をどのように移動しているのかを把握し、都市で暮らすことに何が影響しているのか、役立っている機能や場所はどのような特性があるのかを考察し、都市において人々の足を動かしている機能とは何かを考える機会となる。

A~N の 14 問全ての設問が本文の内容に沿っており、世界で生じている課題や問題意識に繋がる設問である。また、8 問は自身の暮らす街について考察する内容や、自身の意見を問う設問であった。これらの設問は、本文に記載されている世界の事例から都市の成り立ちや長所と短所を把握し、それが身近な環境での活かされ方に目を向ける必要がある。身近な都市や住環境について深く考察し、現代の課題に向き合う機会となる設問である。

生徒が社会的問題を他人事ではなく身近な問題として捉え、その背景を深く理解しながら将来より良い住環境が提供されるには何が必要なのかを探ることができるといえる。

表 5 スウェーデン地理教科書の知識を確認する設問例

1	都市は水循環にどのような影響を与えますか？
2	都市をより持続可能なものにする為の対策の例を挙げてください。
3	都市とは何ですか？いくつかの異なる定義をしてください。
6	スラムにはどのような種類がありますか？
7	19 世紀に都市はどのように変化しましたか？
8	自動車は都市開発にどのような影響を与えましたか？
11	スウェーデンの都市の現在の傾向は何ですか？
13	都市や地区の有機的なパターンはどのように発生しますか？

表 6 スウェーデン地理教科書の話し合いを促す設問例

A	地球の人口の半分以上が、地球の陸地面積の 1~2%に相当する都市に集中している場合、どのような影響がありますか？
B	「あなたの街」の立地のメリットは？
C	例えば都市化の程度などの国際比較統計を、なぜ鵜呑みにするべきではないのですか？
D	いくつかの都市がメガシティになる理由は何ですか？
E	植民地主義は、以前の植民地の都市が苦しんでいる問題にどのように貢献しましたか？
F	スラムを統合して実際の都市の一部にするためには、どのような対策が必要ですか？
G	1930 年代に、人々は街区や中庭や街区に面した家から、光と風に囲まれた団地型集合住宅に移りました。2 つのシステムの長所と短所は何ですか？また、どちらを好みますか？
H	ミリオンプログラムの住宅に住む人はどのように楽しんでいますか？また、これらの地域に住んでいない人々の意見はどうですか？調査してください。
I	人種差別などの分離は常に悪いことですか？それに対抗しなければならぬ場合、どのように対処しますか？
J	今日の都市計画の傾向の例を調べてください。
K	どのモデル（ゾーン、セクター、またはマルチコア）があなたの街に適用して、50 年前と 100 年前ではどのモデルが適用していましたか？
L	あなたの都市/地域では、人々はどうのように通勤していますか？また、彼らは通勤にどのくらいの時間を費やしていますか？
M	あなたの街ではどのように方向を定めていますか？どの車線、障壁、地区、ランドマーク、交差点を使用していますか？
N	あなたが住んでいる地域は、中心都市（村、小さなコミュニティ、小さな都市、大きな都市）の階層から見てどのように見えますか？

4-4 地理的研究

(1) 構成と序章

地理的研究は 13 の課題で構成されている。1 つ目の課題「地理学における自身の作業」では、地理学の調査分析における基本的な調査方法を「地理的知識」「質問・方法・回答」「作業の流れと概要」の 3 つの節に分けて説明している。調査分析を始めるにあたり、地理的な知識を得た上で最初に疑問点を課題として設定し、仮説を立て、次にアンケート調査を行い、その結果から主張を示すこと。主張や提言をする際には必ず出典を明記することなど、研究や調査の進め方を基本的な部分から丁寧に説明している。1 つ目の課題で記載された調査分析方法を実践的に学ぶ機会として、2 つ目以降の課題では世界の事例を題材に包括的な学びを得られる内容や、さまざまな事例を考察したプロセスを踏まえて自身の暮らす地域の考察をする設問を設けている。

(2) 地図作業による学習

2 節「ヨーロッパの農業地域・地図の練習」ではヨーロッパの岩盤、植生、土壌、年間降水量、気候に関する主題図を使用して農業に適した条件の土地を特定する練習ができる設問が設定されている。この章では最初に農業に適した土地や気候がどのような条件であるかを 300 語程度で説明しており、続いて実際のヨーロッパの主題図を使用してマーキング作業を行い、農業に適した土地の策定を練習できる。地理の学びの基本である地図とじっくり向き合うという基本の姿勢を最初の設問で取り組む。

(3) 包括的学びのある研究課題

3 節「キルナ街を動かせますか？」では、スウェーデン最北端の鉱山地域にある都市キルナを事例として、鉱山の採掘活動拡大に伴い都市を移転する計画を立てた際に考慮すべき項目を、8 つの設問

で順を追って理解させる構造である。キルナは、スウェーデン最大の鉱山を拠点に開発された町で、1890年から始まった採掘により都市の崩落の危険が指摘され、採掘された部分の上にある町、町全体を移転することになった。2007年に一度移転計画が市議会で決議されたものの住民からの反対が強く、2015年に移転先の土地を変更して移転計画が確定し、2035年に移転が完成する予定である。現在その移転作業中であり、現在進行中の地理的課題から、生徒に考える機会を提供するものとなっている。

この課題の設問は8個用意されており、たとえば表7に示す4問目の設問では、L章「地域とコミュニティ計画」で説明している地域計画や土地利用計画に関する箇所からヒントを得ることができる。自治体が新しく土地を取得して大規模な建築物を計画する際に、土地利用計画や条例に従って計画を公開したり許可を得たりする必要性が説明されており、本設問に回答するには、実際のキルナの地域計画等を自ら確認する必要がある。さまざまな規定を調べていく中で、都市を移転するための多くの手順と長期間かかることを知ることになる。また、自身が市民として議論に参加できる時期を知る機会ともなり、社会参画に対する知識を実践的に深められる。

表7 市民としての判断力を培う設問例

設問文	「土地を償還し、建築許可などのさまざまな種類の許可を取得するのはどれほど難しいですか？」
分野	法律
教科書本文中で関連する内容	L章「地域とコミュニティ計画」 ・計画建築法 ・都市計画マスタープラン ・建物変更に必要な許可や方法
設問の考察	・「地域とコミュニティの計画」の章の一部(本文 328-331 頁)では、都市計画において必要な各種の法律や申請許可について、概要と許可を得る過程を記載している。地方自治体が決定するものや、国連やEUが決定に影響するものなどレベル別に説明している。 →事例地域で実践的に必要となる制度を調べる必要がある。 →それぞれの許可を得るにはどれくらいの時間を要するのか、どのような団体が関わっているのか、市民はどのように携わるのかを調べる。 →自身はどの段階で都市計画に関わっていくのかを考えるきっかけになる。

表8に示す7問目の設問では、キルナの事例で計画されている建築物の移動について、実際に移動するための経路をどのように選定するのか考える必要がある。2問目で考察した保存すべき建築物と移動方法や3問目で考察したインフラに関する影響などを踏まえて、さらに実践的に考察させている。また、他の都市で行われた事例を調べることで建築物を移動する多様な理由を知る機会になり、キルナだけでなく自身が暮らす地域などの他地域に対する興味も引き出すきっかけとなる。

各設問で教科書の内容を発展して考察する機会を与えており、都市に対する自身の意見を持たせるようなシティズンシップ力を育てる設問も複数見られた。前の設問で考察した事柄を踏まえてさらに総合的に考察をさせるような内容も多く、より多角的な視点で都市計画について考察する力が身につく構造になっている。全ての設問において、教科書から得た知識だけでは足りない部分を自ら調べるこ

とが必要になるため、この研究課題を通して実践的な調査や考察をする力が身につくと同時に、都市の移転は慎重な検討が必要であることや、都市を移転する過程がいかに複雑であるかを実践的に理解することにつながると言える。

表8 他都市への応用を促す設問例

設問文	「大きな建物をどう動かしますか？他の場所でも同様の動きはありましたか？」
分野	技術
設問の考察	・建物を動かすための費用や時間を調べたり、移動経路を考えたりする。 →都市の立地条件についてより深く検討するきっかけになる。 ・他地域の事例を調べることで、建物を移動するに至った多様な理由や土地性を知るきっかけになる。 →より多角的に都市の移転について考察する機会を与えている。

3-5 スウェーデンの教科書のまとめ

スウェーデンの高等学校地理の教科書は、一つの事例課題に対して設問が複数置かれており、設問の内容は教科書の各章に沿って設定されているものがほとんどである。基本的には分野ごとの設問に分かれているが、複数の分野に関する知識を用いて考察させている設問や、前の設問で考察した内容を踏まえてさらに考察させている設問が多く見られた。社会の実例を多角的な視点を持って実践的に考察する機会を与えることで、自立した市民であることの意識が強くなり、シティズンシップ力の形成に寄与していると言える。教科書で学んだ内容を社会課題に対して実践的に活かす練習の機会を与えている。スウェーデンの高等学校地理教育では、社会を動かす市民の一員であるという意識を持たせることで能動的な社会参画を促す、シティズンシップ教育が活発に取り組まれている。

6. 教科書の比較

6-1 地理Aと地理総合の教科書の比較

学習指導要領改訂前の地理Aの教科書と改定後の地理総合の教科書を比較すると、扱っているトピックや教科書の構成では大きく変更された点はみられなかったが、設問に関しては違いがみられた。地理Aの教科書では本文の知識を確認するだけの設問の割合が多かったのに対し、地理総合の教科書では【確認】、【深い学び】の2種類で明確に分かれており、どちらも知識の確認をする設問と思考力を培う設問が同程度の数であった。特に地形や気候に関連する項目では、設問の内容に大きく違いがみられた。地理Aの教科書では教科書本文中の図やグラフを見て現状を確認するだけの設問や、本文で説明している気候の特徴や地形の名称などを確認するだけの設問が多かったが、地理総合の教科書では地形や気候と生活文化の関わりを中心に確認したり、身近な事例に応用して考えさせたりする設問がみられ、地理的な視点から住環境について考察する力を培う機会がより増えたといえることができる。

6-2 日本とスウェーデンの教科書の比較

日本とスウェーデンの地理教科書の比較においては、住教育に密接に関連する都市計画と地形や気候に関連する内容について重点的に整理した。地形や気候に関する箇所については、頁数と設問数ど

ちらもスウェーデンが日本より多い結果となった。本文の内容に関しては両国でかなり毛色が異なり、日本の教科書では地形や気候と暮らしの関わりについて記載しているのに対し、スウェーデンの教科書では土壌や氷河など地質学的内容が主である。設問の内容に関して、日本の教科書では 25 問中 23 問が本文に記載している気候や風土に関する知識を確認する設問で、そのうち 7 問はただ知識を確認するだけでなく話し合いや考察を促す内容であった。スウェーデンの教科書の設問は本文の内容を確認するものが 46 問と、本文の内容に沿った地質学に関連のある世界の実例を用いて人口問題や居住環境について考察するように促す設問が 7 問置かれ、地質学から身近な社会課題を捉えるように誘導する構成になっている。都市計画に関する内容設問の内容に関しても違いが見られ、日本の教科書では本文に記載されている内容を再確認する設問や事例を調べて表にまとめるように促す設問であったのに対し、スウェーデンの教科書では本文の内容を確認する 16 個の設問の他に、本文で触れた世界の諸課題を生徒自身が身近な住環境で起こり得る課題として捉えてその原因や対策について考察させる設問が置かれている。

また、スウェーデンの教科書の末尾に設けられている「地理的研究」では、世界の実例をもとに 1 つの都市の課題に対して、教科書全体で学ぶ総合的な知識やスキルが必要となることを実感できる、実践的な研究課題も載せている。日本の教科書では、このような実践的で総合的な課題に触れる機会がほとんど設けられていない。

スウェーデンの教科書は専門的な内容が多く、他の教科とも連携できる総合的な内容になっていることが特徴である。世界中の社会における諸課題に対して、現状だけでなくその歴史や背景を詳しく学び、現状課題への対策を生徒自身に考えさせる内容であった。課題の経緯を細かく知ること、人間がどのように地域社会を築いて発展してきたかを深く理解することができる。また、世界の事例を他人事として知識を得るだけでなく、自分事として課題を捉え、将来に必要な地域社会のあり方を考える機会を多く与えている。こうした学習方法により、実践力を身につけ、日常的な事柄に対する課題意識や能動的に社会に働きかける力を養うことができる。

7. シティズンシップ力を培う地理教育の検証

7-1 ワークシート作成の位置付け

日本の地理の教科書では学習指導要領改定を機に主体的な学びにつながる設問は増えたものの、スウェーデンの地理の教科書のように複数の分野に関する知識を用いて考察させている設問や、前の設問で考察した内容を踏まえてさらに考察させている設問を用いて社会の実例を実践的に考察する機会を与えるとは言い難い。そこで本研究では、スウェーデンの教科書の設問例を参考に日本の教科書の題材を用いて独自のワークシートを作成し、学生を対象にワークシートの学習を通して深い学びが得られるかなどの効果を調べる。都市計画や災害対策の観点から調べて考察するように促す設問を設定することで、地理的な見方だけでなく、多角的な視点で地域の課題を主体的に考える力が身につく可能性をはかる。

7-2 ワークシート作成の方針

日本の教科書の地形や気候と生活の関わりについて記載している章では、海岸の地形を利用した産業について本文で記載されており、近年自然のままの海岸が減少していることを説明している。設問は本文から読み取れる知識だけで回答できる内容になっており、主体的に考える力が身に付くとは言えない。そこで作成するワークシートの題材は地形と人々の生活の関わりを考察に設定し、事例地域を全国に先駆けて砂浜の侵食対策を目的に海岸工事が行われている茨城県鹿嶋市を設定し、事例地域の地形の変遷や海岸利用と人々の生活について文章や図で説明する資料と、スウェーデンの教科書を参考に設問を設定した。地形と人々の生活の関わりについて、現状の課題の解決策を主体的に考察する機会を与えているか分析を行う。

7-3 設問の構成と解答内容

設問は全 9 問を設定し、表 9 に示す資料に記載している内容を確認する (1) ~ (5) の設問と、表 10 に示す地形と生活の関わりを考察して自分の言葉で説明させる等のシティズンシップ力の育成に直接的につながる (6) ~ (9) の設問を設定した。(6) で得られた解答は回答者によって差が出たが、自分なりの解釈を交えて考察したものは 50 人中 36 人であった。そのうち特に、資料に載っている事を言い換えるのではなく、事例地域の現在行われている施策が適切であるのか疑問を抱いて考察し、批判的思考力を働かせて解答したものは、6 人であった。(7) では、立入禁止の看板設置や注意喚起についての解答は 50 人中 36 人、ゴミの取締りに関する解答が 11 人で、資料に記載している事柄と似た内容を書いたものが多くみられたが、「学校で地域の歴史や現在起きている課題について学んで解決策を考える機会を与える」というような、地域の人が課題解決のために考えて働きかけることを促す提案をしている解答が 2 件得られた。(8) は事例地域のあるべき姿を問う設問で、設問文で事例地域の都市計画マスタープランを見るように促した。50 人中 34 人が自治体のホームページ等の資料に目を通して解答したものであった。計画方針だけではなく、「これまで砂浜海岸は人々の手を加えながらその形を変えてきた。人々がこの海岸とともに生活することはこれからも必要であると思う。将来的にはこの街が今行なっている保全活動とともに海岸の生態系を守り、災害に適切に対応し、その上でこの海岸を生活に利用する。守り、守られる相互関係を築くべき。」というように、現在の事例地域の考察を踏まえた上で地域の課題を挙げ、解決策を提示する解答が 6 人から得られた。(9) では、事例地域の考察を深めた状態で自身が暮らす地域の都市計画や災害対策を調査する設問を用意した。「毎日電車から眺めていて気づいたが東京側の河川敷は野球グラウンドがあるなど幅が広くとられているが、千葉川は狭いので危険。書川以外にも氾濫の危険がある家多数。」というように、調査した自治体の計画を記載するだけではなく、地域で生活する中で見つけた課題点を挙げて、将来的に地域にとって必要な提案を述べている解答が得られた。(8) までの設問で考察してきた過程を自身の地域にも応用して、身近な地域の現状に対して自身で感じた課題を提示し、解決策を考察する解答が 8 人から得られた。

表9 知識を確認する設問例

(1)	<p>設問文 「鹿嶋地域は古くから人々の生活の場となっていました。どのような地形の変遷がありましたか？次の言葉に該当する部分を図示してください。」(できるだけ2ページの表から読み取って、地形の変遷の理解を深めよう) 【谷底平野、縄文海進でできた入り江、香澄流海と呼ばれた場所、砂洲上にあった大型砂丘、貝塚や古墳が出土した場所】</p> <p>設問のねらい ・事例地域の複雑な地形の変遷を確認する。 ・地図に直接書き込むことでより理解を深める。</p>
(2)	<p>設問文 「鹿嶋地域はかつて大型の砂丘が広がっていましたが、現在は少量の海岸砂丘が残るだけになっています。それはなぜでしょうか。」</p> <p>設問のねらい ・自然ではなく人工的な理由で地形が変わった背景を確認する。</p>
(3)	<p>設問文 「この地域では現在海岸はどのように利用されていますか。」</p> <p>設問のねらい ・事例地域の海岸利用の現状を確認する。</p>
(4)	<p>設問文 「砂浜が減少すると海岸にどのような影響がありますか。地域の人々の生活や産業には影響するでしょうか。」</p> <p>設問のねらい ・砂浜の減少と人々の生活との関わりを確認する。</p>
(5)	<p>設問文 「茨城県のハマグリ漁の漁獲量を調べてみましょう。また、海水浴客は年間どれくらい訪れているのか調べてみましょう。」</p> <p>設問のねらい ・海岸の利用実態の数値を調べることで地域における海岸の重要性を認知する。</p>

9. 結論

本研究では地理教育の設問設定に着目し、日本の地理教育におけるシティズンシップ教育の可能性を検討した。

先進的にシティズンシップ教育を行うスウェーデンの高校地理の教科書は、自分ごととして課題を捉え地域社会のあり方を考える機会を与える設問が多く設定されており、内容に関しても専門的かつ地誌学的なアプローチが多く、地理だけでなく他の教科と連携できる総合的な内容が特徴である。スウェーデンをはじめとする北欧諸国の教科書では、教科書の本文だけでなく設問を通して社会に対する能動的な働きかけを促していることがわかった。

一方で、学習指導要領改訂前の日本の学習指導要領改訂前の地理Aの教科書では、本文の内容を確認するだけの設問がほとんどで生徒自身が調べて社会の課題に対して考えるように促す設問はほとんど見られなかった。2022年度に新設された地理総合の教科書では、社会課題に対して生徒自身の考えや意見を求める設問が増加していたものの、スウェーデンの教科書のように他教科と連携できる総合的な設問はほとんど見られなかった。そこで、シティズンシップ力を育むための学習問題を設定し、その効果を検討した。結果に差は生じたが、社会の現状に対し多角的な視点で考察する力や、批判的思考力を働かせながら課題を見出して解決策を考える力が身についた結果が得られた。日本の地理教科書の設問設定を工夫することで、より主体的な学びにつながり、シティズンシップ力を育む可能性が明らかになった。

表10 シティズンシップ力に直接つながる設問例

(6)	<p>設問文 「砂浜の回復のために海岸工事を行うことによって、どのような効果があると言えますか？地域の人々の生活にはどのような影響があるのか、あなたの考えを書いてください。」</p> <p>設問のねらい ・海岸の工事が人々の生活に与える影響を自らの言葉で考察する。</p> <p>解答の考察 ・結果に差が出たが事例地域の現状に対して批判的思考力を働かせて考察した回答が得られた。</p> <p>解答例 「ヘッドランドを設置することで砂浜の浸食速度を大幅に低下させることができる。また、それに加え養浜で砂浜が消失してしまった区間にも砂浜が復活している。ただそれにより離岸流の発生で水難事故が起きている。それに加え、護岸施設は船舶の航行やサーフィン利用者の障害にもなっている。侵食対策を行うことにより本来の海としての機能が失われ、海水浴等もできなくなるのは本末転倒の部分もあるのではないかと。」</p>
(7)	<p>設問文 「海岸工事に伴うヘッドランドの設置によって様々な弊害も出ています。このような課題に対して自治体がとるべき対策を考えてみましょう。」</p> <p>設問のねらい ・現状の課題に対する解決策を考察する。</p> <p>解答の考察 ・現状の課題に対して自分なりに考察する回答が多く得られた。</p> <p>解答例 「どういう場所にしたいのか明らかにして、ウェブサイトなどを通して示す。地域の小学校などで必ずこの地域について考える授業などを実施し、自分たちでつくっていく場所という気持ちを持てるよう働きかける。」</p>
(8)	<p>設問文 「事例地域において砂浜海岸と人々の暮らしにはどのような関わりがあるのか、過去から現在の暮らしを踏まえて説明し、将来的には街がどのようにあるべきかを考えてみましょう。」 (ヒント：現在の街の計画を知るには、鹿嶋市の都市計画マスタープランを見てみよう！)</p> <p>設問のねらい ・自治体の資料等を調べながら、事例地域で地形と生活がどのように関わってきたかを整理し、地域のあるべき姿を考察する。</p> <p>解答の考察 ・地域と生活の関わりを考察する過程で自分なりの視点で課題を見出し、その解決策として地域のあるべき姿を考察している回答が得られた。</p> <p>解答例 「砂浜海岸と人々の暮らしについて、その変遷を見ることで砂浜海岸の開発によって暮らしも大きく変わっていることがわかった。過去には大きな砂浜海岸が広がり、人々の暮らしの場としての役割を果たしていたが埋め立てが進むことによって暮らしは質が下がってしまった。また現在はヘッドランドの設置などによって砂浜の開発が進んでいるが、これらもゴミのポイ捨てや景観悪化に影響を与えておりまた新たな問題が発生している。これらのことを踏まえて将来の計画として、地域にも暮らしにも好影響を与えるように砂浜の開発をするべきだと思う。ヘッドランドの設置のみならず地域の住民の住生活の質を考慮しながら、地域の産業や環境の向上につながる開発を、住民の意見なども取り入れながら積極的に行われると良いのではないかと考える。」</p>
(9)	<p>設問文 「あなたの暮らす地域ではどのような計画がされていますか？もしくははされてきましたか？地域の地理的特徴を説明し、災害対策や都市計画にどのように活用されているかを調べてみましょう。」</p> <p>設問のねらい ・身近な地域について考察する際に(1)～(8)で考察した過程を活かし、多角的な視点から地形と生活の関わり方を考える。</p> <p>解答の考察 ・(8)までの設問で考察してきた過程を自身の地域にも応用して考察する。身近な地域の現状を整理し、自身で感じた課題を提示し、解決策を考察する回答も見られた。</p> <p>解答例 「都市計画として、駅を中心としてアクセスしやすい位置にまとまって開発が行われていると言う特徴があると思う。住宅や大きな商業施設が一体となって存在しており、駅から離れたところとの差がとても大きいと感じた。今後も駅を中心とした都市計画が予定されているが、町全体をより良くしていくためには駅から離れた地域の計画も整備が必要だと考えるため、幅広い住人層の生活の質を高くするための都市計画が行われていくべきだと思う。」</p>

参考文献

- 1) 葉袋奈美子, 加藤優子, 水上聡子, 小・中学校における住教育の設問設定に関する研究, 住宅総合研究財団研究論文集 No.35, 2009
- 2) タルヤ・ホンカネンほか著, 高橋睦子監訳:「15歳市民社会へのたびだち」, 明石書店, 2011年
- 3) 荒井良雄ほか:「高等学校 新地理 A」, 帝国書院, 2020
- 4) 戸井田克己ほか:「高等学校 新地理総合」, 帝国書院, 2022
- 5) 鹿嶋市都市計画課, 鹿嶋市都市計画マスタープラン,
<https://city.kashima.ibaraki.jp/soshiki/52/20438.html>
- 6) 国土交通省関東地方整備局, 霞ヶ浦河川事務所,
https://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi_index013.html
- 7) 国土交通省関東地方整備局, 利根川上流河川事務所,
<https://www.ktr.mlit.go.jp/tonejo/tonejo00185.html>
- 8) 外戸保大介, 鉦山都市キルナ・イエリヴァレにおける産業動態と都市移転, E-journal GEO Vol. 13(2), pp.452-462, 2018
- 9) LKAB, From mine to port, <https://lkab.com/en/what-we-do/from-mine-to-port/>
- 10) 文部科学省, 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm
- 11) 田部俊充. 浅野由子. 請川滋大. 高野由美子. 定行まり子. 葉袋奈美子. 加藤美由紀, スウェーデンにおけるESDの取り組み-ウプサラ大学との研究教育協力・連携を目指して-, 日本女子大学紀要 人間社会学部, 第27号, 2016
- 12) 浅野由子, 持続可能な開発目標(SDGs)の視点から考察する保育「環境」の重要性-領域「環境」のカリキュラム・教材開発の可能性から-, 日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・人間生活学研究科, 第28号, 2022
- 13) 村山朝子, スウェーデンにみる地理教育の再生-高校における教科地理の復活-, 人文地理, 第47巻第6号, 1995
- 14) 峯島道夫. 茅野純一郎, 日本・韓国・フィンランドの英語教科書の設問の比較分析調査-教科書はクリティカルシンキングをどう教えているか-, 中部地区英語教育学会「紀要」第42号, 2013
- 15) 中山由梨亜, 葉袋奈美子, 中学社会科公民的分野の住教育関連項目におけるシティズンシップ力を育む設問の日芬比較, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2021
- 16) 中山由梨亜, 葉袋奈美子, 高校社会科地理的分野の住教育関連項目におけるシティズンシップ力を育む設問の日典比較, 日本女子大学大学院紀要 第28号, 2022/3
- 17) 国土交通省国土地理院, 国土地理院地図, 2022/7/21
- 18) スウェーデンナショナルカリキュラム (Lpfö 18),
<https://www.skolverket.se/publikationsserier/styrdokument/2018/laroplan-for-forskolan-lpfo-182018>
- 19) 日向野崇, 鹿嶋海岸粗粒材養浜工～砂浜の安定化に向けた新たな取り組み～, 国土交通省国土技術研究会, 2011